

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議 第3回会議 議事録

日 時 平成30年12月14日(金) 15:30~17:00

場 所 アイリス愛知 コスモス3

参加者 【委員】

昇秀樹 委員(座長)、田中豊 委員、森浩英 委員、來田享子 委員、川原三男 委員
(松下浩二 委員、吉田沙保里 委員は欠席)

配布資料 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン案

1 あいさつ

(初出席委員の田中委員の自己紹介)

2 議題

(1) 地域活性化ビジョン中間案について

- ・事務局より、「地域活性化ビジョン(案)」について、配布資料をもとに説明を実施。

- 來田委員
- ・まず、字句の修正についてだが、2ページにピエール・ド・クーベルタンのことを書いていただいて、これは非常に素晴らしいと思う。数日前にJOCの会議に出席したとき、「(近代オリンピックの)父という言い方はやめた方がよいのではないか」という意見が出て、「近代オリンピックの創始者、"founder"」と表示をしようということで、日本オリンピック委員会のミュージアムもクーベルタンの彫像を建てるときに、"founder"とすることに決まった。海外に行くとクーベルタンはほとんど"founder"とされているため、字句の修正をお願いしたい。
 - ・7ページの「基本施策1-1 トップアスリートの育成・輩出」について、前回、発言した内容をまとめていただいたところは、「目指す姿」の2つ目の丸のところ該当すると思うが、後ろ(のページ)を見ていっても、実際の施策や取組との関連性がわかりづらい。一番イメージされているのは、アスリートサポート事業の実施というところだろうが、あの時に申し上げたのは、アスリートがこういうモデルとして生きているという「ロールモデル」をきちんと提示する事業である。事業自体は成果が評価しやすいものであり、どこかに少し入れていただけたらよいかと思う。きちんと達成される事業として効果を測ることができると思う。
 - ・13ページの「目標2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる」のところに「観光・文化」とあるが、愛知からの発信が中心になっていて、情報を収集するという形のものが多い。ダイレクション(direction)が発信型になっているため、せつかくの国際大会が、何か情報を吸収する場としてイメージされづらい表現になっている。「2-1 ③食文化の魅力の発信」は特にそうだが、ア

アジアの食文化は多様であり、それを愛知県に持ち込んで、県民に知らせることで、新しい産業や第一次産業の活性化に影響しうることも考えると、そうした「情報拠点」というフェーズを入れていただいたらどうかということがある。同じ13ページで、終わった後のスポーツ競技施設を使っていく段階のことがあまりイメージされていない。スポーツ施設のレガシー化・観光地化をして、インバウンドで来た人あるいは県民が、アジア大会をやった場所でスポーツできるのだという実感を持たせるようなレガシー化をしておく、今までとは違った使用の仕方ができる。ドイツのベルリンなどでもそのような競技場の活用の仕方をしている。

- ・最後に、「目標4 アジアと愛知の次世代を育む」ということで、人材育成、国際貢献というのが入っていて、具体的にどういった人を育てるのかというイメージには結び付きやすい表現になっている。ただし、せっかく扉のところにオリンピック関連の理念を入れたのだから、ここにオリンピックバリューズ (Olympic Values) のようなものを入れてはどうか。オリンピックバリューズについて、IOCは、卓越性 (Excellence) 「今日よりもよい自分をめざそう」ということ、相互理解・友情 (Friendship)、尊重 (Respect) の3つを示している。それに加えて、オリンピックムーブメントが強調してきたのは「調和の取れた人間」ということ、自律性の高い、自らを律して、自主的で前に進んでいける人ということである。こうした教育コンセプト、スポーツを通じて育てることができると思われる価値を若者たちに感じてもらう、それがあってのボランティアであったり、交流であったり、グローバル人材なのだという積み重ねになると、とても良いと思う。

- 昇 座 長
- ・賛否両論あったが、出入国管理法の改正が成立して、来年度4月から施行される。これまでの留学生や研修生の受け入れとはかなり質的に違う受け入れになる。これまでの(技能実習の)5年間(の滞在)であれば来て帰ることになるが、今度は(在留資格の特定技能)1号が(技能実習の)5年、プラス(特定技能の)5年で10年間いることになり、10年間いれば、結婚したり、子どもができたりということもあり得る。(特定技能)2号では配偶者や子どもを連れて、場合によっては移住するということになる。国は出入国管理をするだけだが、実際には自治体に対応しなければならない。きれいな言葉でいえば、多文化共生のまちづくりをしていくことになると思うが、多文化共生のまちづくりをしていくときに、音楽とスポーツのような、言葉が通じなくてもいっしょに楽しめるものが要る。せっかくアジア大会をやるのだから、アジアの人を中心に愛知県に来ていただく。その時に、「いっしょにスポーツを」といって活用していく。来年の4月から(新たな制度が)始まるため時点的にどうかということはあるが、そうした実験の場として、アジア大会に向けていろいろな交流をして、それを日常の定住の外国人と愛知県民との交流にも活用してもらおう、というストーリーができる。そうしたことがあると、これからの課題に向けて、県民の方に対して、アジア大会が単な

るスポーツ大会ではなく、スポーツはもちろんだけれども、愛知県の方が海外の方といっしょに社会を作っていくのに非常に大事な大会なのだということを伝えていけるとよい。東京オリンピックでも大阪万博でも（誘致に）成功していなかったら、住民監査請求が出ていたと思う。税金を使うことの意味を住民の方に説明することを求められる時代であるため、アジア大会が、一般の方が思っている意味より、広い意味合いで将来の愛知県に役立つことになり、そのことを知ったうえで、アジア大会に取り組み、アジア大会が終わっても、そこで得たものを定住外国人の方との交流に活かしていくような、大会前、大会中、大会後とつながる表現になるとよいと思う。検討していただきたい。

- 川原委員
- ・私も多くの大会を見てきたが、単なるスポーツ大会で終わってしまうと、一過性で終わることが多々あった。オリンピックでもそうならいために、「レガシー」という言葉が最初から出てきている。アジア大会でもそれに倣って、愛知県版として、愛知県がこれからどれだけ伸びていけるのかということ盛り込んで書いていただいております、心強く受け止めている。23 ページの「ビジョンの推進に向けて」というところにあるように、県行政だけ、スポーツ界だけではなく、いろいろな方に関わっていただき、愛知県が諸手を挙げてアジア大会を誘致し開催し、その後に残るものが多くある、という大会になればよいと思う。
 - ・字句の訂正について、8 ページの「④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保」というところ、「アスレチックトレーナー」とあるが、日本スポーツ協会やアスレティックトレーナーの資格取得に関わる場所では、「アスレティック」という表記がなされており、直していただきたい。また、8 ページと9 ページに「愛知県体育協会」とあり、欄外でも構わないが、4月から「愛知県スポーツ協会」に名称変更されるため、反映をお願いしたい。
- 森 委員
- ・前回も少し話したが、時間軸という点について、12 ページの「観光」について強く思ったことがある。アジア大会はこれから何年も先の話だが、ここに書いてあるインバウンドについては、8 年後までにといいよりも、今からでもやるべきことがあるのではないかと感じる。大会前、大会中、大会後という話もあったが、やはり時間軸を明示することで、「いつまでに、何をするか」ということが明確になると思う。特に観光では、すぐにでも着手してインバウンドにつなげていく施策と、観光資源の磨き上げや着地型（観光）商品といったことは地域一体となってやっていくことで時間もかかるため、短期でやること、中長期でやることを分けることで、より説得力が増すのではないかと感じる。
 - ・大阪万博が決まり、2025 年に大阪に人が来るということからすると、2026 年のアジア大会がどうなるのか、まだイメージが湧きづらいところがある。大阪万博に来た人にも、中部、愛知・名古屋に来てもらうというスピード感で準備できると、アジア大会もより良いものになるという印象がある。
 - ・今回、SDGs の記載が出てきたが、これをどういった形で、それぞれの目標にどのように落とし込まれているのかを具体的に記載し、取り組みの対応関係を示

すような絵を付けられるとよいと思う。

- ・また、「目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を高める【地域経済・産業】」の目指す姿の「高度先端産業」という見出しや基本施策3にも”Made in AICHI”とあるが、8年後の姿を見たときに、従来型のものづくりにおける先進的な先端産業というよりも、デジタル革新であるとかビジネスモデルが変化する中で、色々なものが融合して新たなものづくりへと、産業界は進化しなければならないと思っている。こうした”Made in AICHI”のショーケース化の中で、「先進的な」というイメージが、もっと先に進んだ、次世代の、従来型ではない、ものづくり・コトづくり・サービスづくりといったものになっていくというところを踏まえた表現になると良いという印象を持った。

昇 座 長

- ・2020年が東京オリンピック、2025年が大阪万博で、1960～70年代の再現となっている。2005年に愛知で万博があり、2020年に東京オリンピック、2025年に大阪万博、2026年にアジア大会、2027年にリニア開通ということで、アジア大会をこの一連の流れの中に組み込めないか。東京オリンピックと大阪万博は、全国ニュースになって皆の意識に残っているが、アジア競技大会は世界大会ではないため、ともすると、オリンピックとは違う、という認識になってしまう。単なる国際大会ではないし、昔のアジア大会は違って、アジア全体が新興国ではなく豊かになって、実際に多様なスポーツでも成果を出し、経済で見ても色々な形で世界に貢献できるようになっていて、そうした国々と交流することは、日本にとってもこれからの社会のためになるということができる。言い方は難しいが、これまでのアジア大会とは少し違って、世界の成長拠点が環大西洋から環太平洋へと移っている、そうした中でのアジア競技大会を、オリンピックや万博に準ずる、意義のあるものとして、並べてもらえるような戦略が必要。そのことによって、アジアにも認知してもらい、じわじわと広がっていくような、そうした戦略を考えてもらった方がよいと思う。というのも、東京オリンピック、大阪万博に埋没してしまう可能性があるため。例えば、札幌のアジア大会は、ほとんどの人が知らなかったようだ。その轍は踏んでほしくない。
 - ・リニアが通り、東京・大阪・名古屋の三大都市圏でビッグイベントが連続していて、スーパーメガリージョンの中で開かれる大会であってと、色々なことを集めて、時系列として2020年の東京オリンピック、2025年の大阪万博、2026年の愛知・名古屋アジア大会という流れを作ってもらえるとよい。
 - ・この（会場に貼ってある）ポスターもスマートで良いと思うが、PRもここ（愛知県）だけでやるのではなく、東京や大阪などを巻き込んで仕組めるよう、一度、考えていただけるとよいかと思う。
- 田中委員
- ・今回のアジア大会を活用して、地域の活性化を図ることは大変重要なことだと思っている。現状の案を見ると、大変多くのことを盛り込んでいただいて、色々な角度から書いていただいている。実際に、これを実行に移す段階を考え

ると、ある程度、優先順位やメリハリといったものをあらかじめつけていった方がよいと思う。いっせいにスタートすると大変なことになりそうだな、というのが率直な感想である。

- 例えば、これを契機にスポーツ交流を盛んにすることを考えたとき、数多くの国が参加し、競技も大変多くある中で、それぞれの国の事情を見ていると、ナショナルスポーツというものは国ごとにはっきりと違う。例えば中国では卓球、日本ではメジャーでないが、インドやパキスタンではクリケット、サッカーは世界中でそうだが、アジア競技大会の参加国でいえばタイやマレーシア、インドネシアでナショナルスポーツのような位置づけになっている。そうした国の得意なスポーツを意識しながら、ターゲットの国と競技を絞り込んでやっていくこともひとつの方策だと感じる。
- 同じような視点から、目標2に「観光・文化」といったことが書かれている。この地域には観光・文化ともに素晴らしい素材がありながら、これまであまり情報発信をしてこなかったというところがある。これからは観光交流を推進していくということで、愛知県でもディスティネーションキャンペーンを展開している。ここでも、アジア向けのPRやプロモーションということが書かれているわけだが、実際にそれぞれの国を見れば、市場性や将来どのくらい有望なのかといったことも、それぞれ特徴があると思う。さらに、セントレアの路線が開設されている国は、特に重点として、ターゲットとして絞りながら、観光、文化のPRをしていくこともひとつの方向かなと思う。
- 最後に、「目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を強める」とあるが、当地の主力である自動車についてあまり書かれていないと感じた。現在でも、自動運転は実証実験がされており、水素自動車のための水素ステーションの設置も一生懸命働きかけをされている。ものづくり愛知を象徴する自動車産業の将来の姿として、自動運転や燃料電池、あるいはパーソナルモビリティといったものを実現していくような、次世代モビリティのグローバルセンターという形を、このアジア大会を活用してもっと訴えていくというようなことも織り込んでいただくとよいと思う。

昇 座 長

- 高度先端産業の集積地であるということ、もう少し具体的にして、自動車産業であったり、AIであったりを、アジアとの交流を通じて、市場として開拓するということや工場を建てるといったことを書くと、具体的なイメージが持ちやすいかなと思う。
- アジアに開かれた都市ということで、割と明確にそのことを意識して対外的に情報発信してきたのは福岡市。名古屋でもあったが、地域博覧会が全国で流行った時に、福岡市では「よかトピア」という博覧会を開いて、そこではっきりと「アジア太平洋に開かれた福岡」と言っていた。具体的には、秋にアジア祭りというもの、毎年開いて、アジアの人に毎年来ていただき、食であったり、アートであったりの交流をしている。それをやりながら、福岡市立アジア太平洋美術館という

のをオープンさせて、実際にアジアのアーティストがそこにしばらく滞在して作品を作るといふこともしている。日本の自治体の中で、これから福岡は「アジア太平洋で生きていく」といふことを、明確に打ち出していた。かつてアジアの窓口は大阪であったが、(福岡は) その地位を大阪からとるのだといふくらいのつもりでいて、現に韓国、中国の領事館が福岡に移ってきたり、アジアの企業が福岡に出てきたりと、アジアに早い時期から着目し、今も(取組を) 続けている。

- ・名古屋に話を戻すと、2027年にリニアが名古屋まで開通して大阪までは行かない、これがチャンス。今まで、西日本の窓口やアジアの窓口は、大阪だったが、リニアが名古屋で止まり、大阪まで行くのに10年プラスアルファかかる。その10年プラスアルファの間に、西日本・アジアに対する窓口を大阪から名古屋に移してしまおうと。そうした形で、その中にアジア大会を位置付けることができれば、「アジアの窓口はこれまでは大阪だったけれども、これからは愛知・名古屋がアジアの窓口になる」といふ戦略を作っていくのは面白いと思う。
- ・新幹線は、岡山が非常に良かった。新幹線の岡山開業で岡山の中枢性が上がって、広島と並ぶ政令指定都市となった。新幹線の岡山開業の前は、広島と岡山は別格の都市で、広島の方が上だったが、岡山開業となって岡山の営業所が支店に上がった。岡山は横軸の山陽本線だけでなく、四国の窓口でもあり、岡山県は道州制の議論のときに中国四国地方を主張して州都は岡山だと言っていて、広島県は中国地方で州都は広島と言っている。それを見ているから、広島県は広島開業を当時主張したが、国鉄は一举に博多まで開業させて、広島はそのチャンスを持たなかった。岡山は岡山開業があり、それを機会に力を蓄えて中枢性を上げて、(今では) 政令指定都市となり中国地方で両雄という形になっている。
- ・名古屋開業であり大阪まで来ないため、その10年プラスアルファの時間を使って、西日本、アジア、世界の窓口としての愛知・名古屋をどうやってつくっていくかといふことに取り組むと、面白いことが起こる可能性がある。試行・実験として面白いし、存外効果があるかもしれないため、少し考えていただければと思う。
- ・今日、欠席の委員からご意見をいただいているようなので、事務局からご紹介をお願いします。

事務局

- ・吉田委員からは、ビジョンの記載事項、内容については特に異論はないが、ビジョンの実現に当たってといふところでご意見をいただいた。
- ・7ページの「基本施策1-1 トップアスリートの育成・輩出」に関して、特にマイナー競技において、まだアスリートの負担が大きいケースがある。例えば、吉田委員の先輩にカヌー競技の一種目であるカヌーフリースタイルという競技で、何度もワールドカップ優勝の実績をもっている方がいる。現状では一切の公的支援がなく、マイナー競技であることから、スポンサーの確保に非常に苦慮されており、海外遠征はおろか、練習環境の確保もままならないという状況である。マイナー競技において、同様の環境にあるアスリートも多数いるとのことで、そ

うした方々にスポットのあたる施策もできれば、との意見をいただいた。なお、この方は県内の選手ではない。

- ・「基本施策4-1 ボランティアの育成」については、多くの方にボランティアとして大会に関わっていただき、スポーツの振興・理解、海外の交流促進につなげてほしいと思う。ボランティアとして期待される、学生をはじめとする若者世代の経済状況は長らく厳しい状況にある。本ビジョンが目的とする地域活性化には、観光や地域産業の振興といった実利面の目的もあることから、ボランティアの方に対する経済的な負担、例えば移動費や宿泊費の負担が発生しないようにできないのか、という意見があった。
- ・松下委員からは、ビジョン全体については、非常にわかりやすく読みやすかったという意見をいただいた。また、ビジョンとは別に、大会運営についてという点でご意見を伺っている。
- ・アジア競技大会へのトップ選手の出場というところで、ぜひJOCを通じて個々の競技団体に対して、アジア競技大会開催期間中は国内の全国大会の開催を外してもらい、国際大会についても、国内の競技団体であるNFを通じて国際競技団体に働きかけてもらい、アジア競技大会期間中は国際大会を外してもらいような要請はしていった方がよい。
- ・「基本施策1-1 トップアスリートの育成・輩出」については、いかに良い指導者を紹介できるかがポイントで、レベル、実績の高い指導者を確保することがトップアスリートの育成には不可欠ということで、卓球の水谷選手や張本選手の話もあり、2人とも海外の有名なコーチの指導を受け、張本選手は両親がコーチ的な立場の方だったということで、そうした環境が重要である。
- ・「基本施策1-4 アジアのスポーツ振興への貢献」という部分でも、アスリート、指導者等によるアジアとの交流に関して、日本卓球協会でも卓球が普及していない地域や国に対して積極的に活動をしており、スポーツ後進国にどのようにアプローチをかけていけば良いのかということは協会が（考えを）持っているため、そうした関係者の方と協力して様々な取組をしていった方がよい。
- ・「基本施策2-2 ①スポーツツーリズムの推進」について、卓球の話だが、華僑の方は非常に卓球を好まれ、卓球の試合を観戦に日本に来る方も多い。Tリーグには中国の他、台湾、韓国、香港からも観戦客が来る。こうした観点も大会を盛り上げるためには重要。トップ選手は情報発信力が非常に大きく、ファンが来て情報をSNSで拡散すると、自然とこの地域の情報も広がっていくのではないかと。
- ・ビジョンの目標については、第4回に向けて調整中ということと、なかなか具体的な目標を達成することができない部分も多々あることは理解しているが、松下選手自身がスポーツの一流選手であるため、目標を定めてその目標に向かって取り組んでいくという性格もあり、やはり最終目標はあった方がよい、とった意見をいただいた。

昇 座 長 ・ トップ選手が出場できる環境をつくること、日本でやるなら日本のトップ選手

が出場できる環境づくりも重要。東京オリンピックのボランティアは一定の評価ができるが、反面教師的な面もある。

- ・以上のお二人の意見も踏まえつつ、あるいは他の委員のご意見を聞いて触発されたことがあれば、いかがか。

来田委員

- ・ほかの委員の先生方のお話を聞いていて、そもそも、愛知県にとって、あるいは愛知県民にとって、「アジア」がどういうものだと受け止められているかということ、もし愛知県庁でデータをお持ちであれば教えていただきたい。同時に、アジアの人々から見て「愛知県というのがどういうところなのか」、その2つの交差点をみて、ビジョンに入れていった方がよいと思う。さまざまな指標を使っていくときに、非常に重要なメルクマールになるかと思うので、もしあれば教えていただきたい。

事務局

- ・県全体としてというより、各課にいろいろな担当があるため、担当ごとに見方が違うかと思う。観光であれば、集客の対象として非常に重要だという視点を持っており、特に今までは、中国、台湾、香港など（からの観光客）が多かったが、これからは他の地域も発展してくるため、そういったところからの誘客についても非常に重要視していると思う。また、産業のセクションから見ると、企業進出でこちら（愛知県）から進出する、そこ（アジアの国々）のものを輸入してくる立場、また加工して輸出するという観点で、アジア各国を見ているかと思う。各部署、各課によって、いろいろな見方がある。

来田委員

- ・それらを横断的に見て、「愛知県民」のというフェーズに置き換えていただき、この「アジアのイメージ」をどのようにしていきたいかということ、もう少し入れ込んでいくことで、ビジョンが県民に伝わりやすくなるのではないかと思った。同時に、それらはヨーロッパに対する思いとどう違うのだろうか、ということを見ておくと、戦略を立てるときに有効だと思うので、基礎的なデータとしてお願いしたい。
- ・もう一度眺めていて気が付いたのは、前回（の会議で）、アジアパラ大会をするのが問題になっていた。まだわからないということだったと思うが、それ（パラ大会）が来ても来なくても、まちのバリアフリーはやらなくてはならないというところがある。14ページの「2-3 受け入れ態勢の整備、おもてなしの充実」での案内機能や多言語対応以上に、「バリアフリー」という言葉を入れることで前回の議論も活かされ、使えるものになるかと思う。
- ・21ページの主な取組に「① 国際理解教育の推進」というのがあり、非常に良いと思うが、この「理解」は相手のことを知るということに留まってしまうことが多く、自分たちのことを発信する、発信できる力を身につけさせる教育になりづらいところがある。これは、今、東京都がやっているオリンピック・パラリンピック教育で、東京都庁の方々や現場の先生方と対話する中でも出てきている課題である。色々な形で大会を通じて、様々な教育活動を行うが、まず自分たちのまちを知らないため、聖火リレーコースを作ろうといっても、まち

の良さがわからないのでどのようにアピールするか、子どもたちはとまどってしまふ。まずまちの良さを調べ学習させて、それをもとに聖火リレーのコースを作るという授業が現場の先生から紹介されていて、その授業はとても良かった。その一方で、「東京オリンピック・パラリンピックが終わって聖火が来なくなってしまうと、この学習活動はできなくなる」というイメージにもなってしまう。この授業紹介の後では、オリンピック大会はずっと2年おきにあり、アジア大会もあるのだから、この学習はずっとスキームとして残せるという意見交換をすることができた。その時に、先生方の話を聞いて感じたことは、自分たちのまちの魅力を発信する力の弱さであり、産業や観光の項目では情報を発信することが多く含まれているのに、国際理解教育の項目では情報を吸収するだけのような表現になっている。情報は発信と受信の行き来があってはじめて生きたものになるため、国際理解教育の推進という項目にも発信のニュアンスを入れてもらえればと思う。

- ・観光・ツーリズムのことでいうと、2022年のアジア大会が中国の杭州、2024年（夏季オリンピック）がパリ、そして2026年が愛知・名古屋、2028年（夏季オリンピック）がロサンゼルスとなっており、これらの都市をツーリズムとして、スポーツの現場をまわる、レガシーを辿っていくという、非常に規模の大きなスポーツツーリズムも構想できるかもしれない。一見、関係のなさそうな、各大会開催地との連携を模索するのもよい。
- ・23ページに「ビジョンの推進に向けて」とあり、おそらく第4回で中心に意見交換するところだと思うが、ビジョンの見直しの前にどうしても必要なフェーズとして、モニタリングというものがある。モニタリングというのは、事業を蓄積していった、それを評価するものだが、この「評価ができる」、あるいは「評価に協力してもらえる」ような、「情報共有と連携・協働」のための具体的な組織を、今の段階から想定しておく必要があるのではないか。ビジョンが出てから、モニタリングして成果を測るための協力団体を探すということでは、どんどん遅れていってしまう可能性がある。「このNPOにはビジョンの中で書いたこの施策の部分で協力してもらおう」、というイメージを作りながら、第4回にスライドしていくのが良いのではないか。
- ・最後に、ビジョンの見直しと同時に、2026年の総括をいったい何年後にするのかということも、あらかじめ想定しなければいけない。総括年を入れておかないと、次のステップにアジア競技大会を活かすことができないだろうと思う。ぜひビジョンの中に少しそうしたものを入れ、その評価をもとに次のステップになるようにしたほうがよいのではないかと思う。具体的な総括年を目標として書き込むことは、厳しい課題をつきつけるようだが、後で絶対に楽になり、愛知県にとって評価されるイベントにアジア大会をすることができる。
- ・意識については、愛知県というのはなかなか難しいかもしれないが、日本国民というくらいのベースであれば、アジアをどう考えているのかというものがあるか

昇 座 長

もしれない。項目によって、(調査が) できるもの、できないものがあるが、そうした意識を持つことは大事だと思う。愛知県民はアジアをどう見ているのか、アジアの人は愛知をどのように考えているのかは大事。例えば、観光で来られた方にいくつかサンプルとして聞くというのはどうかなと思う。

田中委員 ・19 ページにボランティアの記述があり、ボランティアの主体は愛知県民というように読める。そうであるならば、そうではなくして、(さらに) 外国人のボランティアもある。現状 22 万人くらいが県内にいて、外国人労働者受け入れのこともある。そうしたものをうまくミックスして、外国人ボランティアをうまくインボルブすることによって、多文化共生という形で、大きく効果が出てくるのではないか。2000 年にシドニーオリンピックがあり、移民国家であるオーストラリアでは、たくさんの国ごとのコミュニティが実際にある。聞いた話では、2000 年の 3 年くらい前に、シドニー市が各国のコミュニティを集めて、「あなたの国の選手をサポートしてください」ということを言い、オーギーとミックスで(取り組む) という戦略を組んだと聞いている。結果までは存じていないが、うまい作戦としてやっていると思う。この国にも、学生さんだけでなく、世界中から人が来ており、利用しない手はないだろうと思う。

昇 座 長 ・言葉の問題からすると、日本語は大変だと思うが、本国語は当然ネイティブとして話せるため、例えばインドネシアから来た人が、インドネシアから来た選手をサポートするということは、相互にとってやりやすい。それを、少し日本人が応援するという枠組みができればよい。市町村単位で国を応援することも面白いが、世界各国から来ている人がそうした形で、アジア大会に参加してもらうこともできる。愛知県民でなくても、岐阜県民でも、三重県民でも、あるいは北海道からでも沖縄県からでも、興味のある方は来ていただいて、ボランティアになっていただくというところからすると、「県民」という表現については少し大きくしていただければと思う。

森 委 員 ・参考までという話であるが、先ほど愛知県民がアジアのことをどう考えているか、という話があった。逆に、世界の若者が愛知県をどうみているかという話で、一部のサンプルでしかないのでは他の見方もあるかと思うが、中部経済連合会で留学生やこの地域で働いている方を集めて、ワークショップをしたときに愛知県のイメージは何かと聞いたら、トヨタ自動車だということだった。この地域にトヨタ自動車のようなものづくりのメーカーしかないというイメージがあり、例えば情報産業やサービス産業に就職したいというときに、愛知は選ばれないということも多くの方がおっしゃっていた。そうしたイメージが強い中で、愛知をどのように PR していくのか、観光でも同様だが、示し方は非常に大きな課題になるかと思う。

昇 座 長 ・海外に行って、日本の都市でどこを知っているかを聞くと、「東京、大阪、豊田」だと言うことが多い。豊田を知っているが、名古屋は知らない。それはトヨタのすごさがわかって良いことなのだが、愛知県はトヨタだけではないとい

うところをPRしていくことも大事。

- ・事務局の方から今までの意見を踏まえて、何かあれば。
- 事務局
- ・貴重な意見をたくさんいただき、盛り込んでブラッシュアップしていきたいと思う。特に大阪万博が決まり、それに絡めて、オリンピックや大阪万博と組み合わせ、このアジア大会の価値をもっと上げていけばよいのではというご意見があった。今、同じような取組をしているものがある。ラグビーワールドカップ、オリンピックと関西ワールドマスターズゲームズの3つの大会を組み合わせ、ゴールドenspportsイヤーズというような打ち出し方をしている例もあるため、できる限り大阪万博や他の大会と組み合わせPRしていきたいと思う。
 - ・時間軸をもう少し明確にしたほうが良いというご意見もいただいたが、大阪万博のタイミング、(愛知・名古屋大会の)4年前の杭州の大会のタイミングで、どのようなことをすればよいのかという視点に立てば、もう少し時間軸が明確にしやすいと思うので、そうした観点をに入れてさらにブラッシュアップをしていきたいと思う。
- 昇座長
- ・横の連携をとっていただき、相互にwin-winの関係を築いていただくと、相乗効果があると思う。

3 その他

- ・ビジョンの策定に係る今後の予定等について事務局が説明